

“くすりのしおり®”使用例

湘南泉病院は横浜市の西部、泉区、旭区、瀬谷区の区境に位置し、内科・外科・形成外科を主体とする救急指定病院です。

病床数は156床、近所に薬局がないため、外来処方箋の多くを院内処方で行っています。

こちらの病院では患者さんにくすりを渡す際、“くすりのしおり®”も一緒に渡して服薬指導に努めています。

今回は“くすりのしおり®”を使用することになった経緯や患者さんの反応などを、薬剤部長の深瀬先生にお話いただきました。



医療法人社団 鵬友会
湘南泉病院

薬局長 深瀬 慎一郎氏



“くすりのしおり®”



特定医療法人社団鵬友会
湘南泉病院
救急指定

日本医療機能評価機構認定病院

Q3. “くすりのしおり®”は薬剤1つに対してA4サイズ1枚が目安となっています。薬剤が多くなるとその分患者さんへ渡される用紙も増えますが、苦情などはないですか

A

約2年前から医薬品情報として“くすりのしおり®”を印刷して渡していますが、患者さんから「多い」または「いらない」など言われたことはなく、逆に喜んでいただいております。

今は患者さんが自ら飲んでいるくすりについて調べられる時代。だからこそできるだけ情報の欠落がないようにしたいと思っています。そういう意味でも“くすりのしおり®”の枚数を減らすために自分達で加工するよりも、詳しい情報が掲載されているそのままの状態で、渡したいと考えています。

【深瀬先生から一言】

“くすりのしおり®”は、外来患者様向けの情報提供文書として以外にも、入院患者様向けの説明文章としても、大変有効に使用させていただいている。

“くすりのしおり®”はデータのメンテナンスもあり、また、ジェネリック医薬品の多くも登録されていて大変便利で、心強いサポートツールとして認識しています。

今後ともどうぞ、よろしく御願い致します。取材に来ていただき、ありがとうございました。

Q1. “くすりのしおり®”をどこで知りましたか

A

以前から“くすりのしおり®”の存在は知っていましたが、具体的にどんなものは知らずにいました。そんな時、神奈川県病院薬剤師会で貴会の薬剤疫学会が講演をしており、偶然出席したことをきっかけに具体的に知りました。

Q2. “くすりのしおり®”を利用したきっかけは何ですか

A

当初は入院患者さんに使用を考えていました。しかし、ちょうどその時期にスティーブンス・ジョンソン症候群など重篤な副作用の報告がされ、それを見て対応を検討した結果、窓口で副作用情報などを伝えることは時間的に限られ難しいことから、情報の欠落がないことを一番に考えると、“くすりのしおり®”を渡すことが一番いい方法だと思い使い始めました。